

なかつがわ全市景気ウォッチャー調査

〈市内の景気の動向を接客や取引を通じて肌で感じている人たちによる客観的な景況感調査〉

平成22年5月調査結果

現在の景気の現状判断は、先月に比べ4.6%ポイント下げたDI値が30.5%ポイントと、厳しい状況が続く判断となっています。特に、小売関連は12.7%ポイントと大幅に低下し21.7%ポイントと非常に厳しい状況へ戻る判断となっています。

次に1年前と比べた場合は、先月とほぼ同じ0.1%ポイント改善のDI値49.4%ポイントとほぼ回復の状態が続く判断となり、内訳では家計動向関連の小売関連で3.6%ポイント下げた他は、ほぼ横ばいで、雇用関連は、製造業の好調な機運から7.1%ポイント上げて71.4%ポイントと引続き回復を示す現状判断となっています。

また、3ヶ月前と比べた場合は、先月より5.8%ポイント悪化の47.6%ポイントと、回復傾向からやや厳しい状況に戻る判断となっていますが、サービス関連は、4.3%ポイント改善したものの小売関連が11.6%ポイント、飲食観光関連が11.8%ポイント下げる結果となっています。雇用関連は7.1%ポイント改善の64.3%ポイントで引続き回復を示す判断となっています。

3～6ヶ月前の景気の先行き判断は、先月に引続き6.2%ポイント改善の54.9%ポイントと小売関連の横ばい以外は、雇用関連も含め、さらに回復傾向を見込む予想となっています。

◎全体的には、引続き消費の低迷や低価格志向があり小売関連に不安があるものの、現状判断は、ほぼ回復傾向を示し、先行きについても回復傾向を示す予想となっています。また、ギリシャやハンガリーの財政危機による影響に注視する必要があると思われます。雇用関連は、6月末にまとまるの高卒者の求人の動向を確認する必要があります。

平成22年6月14日

なかつがわ全市緊急経済対策本部

調査の概要

○調査の目的

市内の景気の動向に関連のある人々の協力を得て、市内の景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とする。

○調査の対象

- 1 対象地域 市内全域
- 2 調査客体
家計動向、雇用等の代表的な経済活動に携わる、さまざまな業種の方々、45名

○調査事項

- 1 景気の現状に対する判断（方向性）
- 2 1の理由
- 3 2の追加説明及び具体的状況の説明
- 4 景気の先行きに対する判断（方向性）
- 5 4の理由

○調査の時期

調査は毎月、当月時点で、調査期間は毎月25日から月末まで(今回は6月10日まで)

○有効回答率

91.1% 有効回答客体 41名

○判断方法

日本銀行で発表している「主要(全国)企業短期経済観測調査」いわゆる「日銀短観」や内閣府で発表している「景気動向指数」に使われている経済指数をディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)略して「DI」といいます。

「DI」には、「日銀短観」で使われる単純に3つの選択肢、たとえば「良い」、「変わらない」、「悪い」を用意し、回答から%を求め「良い」の%から「悪い」の%を引いた指数(%ポイント)が0を境に0以上になれば景気回復、0以下になれば景気後退を示す方法と「景気動向指数」のように3つ以上の選択肢を用意し、その選択肢に均等に0~1の評価点を与え、それぞれの回答から%を求めそれぞれの評価点を乗じたものの合計を指数(%ポイント)として50を境に50以上になれば景気回復、50以下になれば景気後退を示す方法の二つが主に使われています。

前者に比べ後者の方が選択肢が幅広くなり、より正確な指数を得ることができます。

今回の調査は、選択肢を5つ用意していますので、「景気動向指数」と同じ後者の方法で判断するものとします。

1 DI値の算出方法

5段階の判断にそれぞれ以下の点数を与え、これらに各判断の構成比(%)を乗じて、DI値を算出する。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価点	1	0.75	0.5	0.25	0

2 DI値について

DI値が50の場合は横ばいを示し、0に近づくほど景気後退傾向、逆に100に近づくほど景気回復傾向であることを示す。

100 ← 50 → 0
 良くなっている 変わらない 悪くなっている

例えば

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
調査結果	8	9	9	10	9
構成比(%)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI値	17.8	15	10	5.6	0
DI値(合計)	48.4		⇒	ほんの少し景気が後退している	

となります。

調査の結果

1 現在の景気の現状判断

現在の景気の現状判断としては、先月に比べ4.6%ポイント下げて30.5%ポイントと、厳しい状況が続く判断となっています。

内訳では、家計動向関連で小売関連が12.7%ポイントと大幅に低下し21.7%ポイントと非常に厳しい状況に戻り、飲食観光関連は1.4%ポイント改善し37.5%ポイントと厳しい状況ながら改善し、サービス関連は、先月と同じく25.0%ポイントと非常に厳しい状況で足踏みした判断となっています。

また、雇用関連でも、先月と同じく42.9%ポイントと、やや厳しい状況が続く判断となっています。

表1 5月構成比

	良い	やや良い	どちらとも 言えない	やや悪い	悪い	未回答	D I 値
合計	0.0	7.3	29.3	41.5	21.9	0.0	30.5
家計動向関連	0.0	5.9	26.5	41.2	26.4	0.0	28.0
小売関連	0.0	0.0	20.0	46.7	33.3	0.0	21.7
飲食観光関連	0.0	16.7	33.3	33.3	16.7	0.0	37.5
サービス関連	0.0	0.0	28.6	42.8	28.6	0.0	25.0
雇用関連	0.0	14.3	42.9	42.8	0.0	0.0	42.9

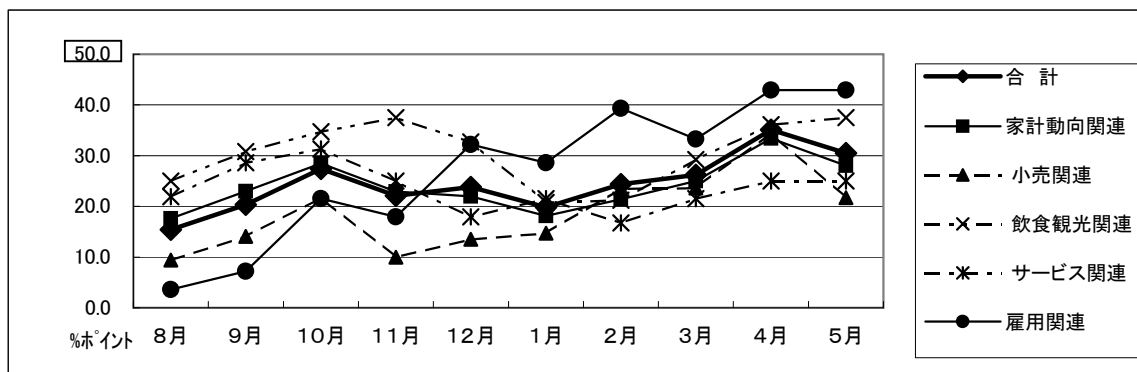
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良い	やや良い	どちらとも 言えない	やや悪い	悪い	未回答	D I 値
2009	12	0.0	2.5	22.5	37.5	35.0	2.5	23.8
2010	1	0.0	2.3	20.9	30.3	46.5	0.0	19.8
	2	0.0	11.9	16.7	28.6	42.8	0.0	24.4
	3	0.0	7.1	19.1	45.2	28.6	0.0	26.2
	4	0.0	16.2	24.3	37.9	18.9	2.7	35.1
	5	0.0	7.3	29.3	41.5	21.9	0.0	30.5
	(前月差)	(0.0)	(-8.9)	(5.0)	(3.6)	(3.0)	(-2.7)	(-4.6)

表3 D I 値の推移

	2009年 12月	2010年 1月	2月	3月	4月	5月	(前月差)
合計	23.8	19.8	24.4	26.2	35.1	30.5	(-4.6)
家計動向関連	22.0	18.1	21.4	25.0	33.4	28.0	(-5.4)
小売関連	13.5	14.7	23.5	23.6	34.4	21.7	(-12.7)
飲食観光関連	32.7	20.8	21.2	29.2	36.1	37.5	(1.4)
サービス関連	17.9	21.5	16.7	21.5	25.0	25.0	(0.0)
雇用関連	32.2	28.6	39.3	33.3	42.9	42.9	(0.0)



2-1 1年前と比べた場合の景気の現状判断

1年前と比べた場合は、先月とほぼ同じ0.1%改善の49.4%とほぼ回復の状態が続く判断となっています。

内訳は、家計動向関連の小売関連で3.6%下げて41.7%とやや悪化したものの、飲食観光関連で0.7%改善の47.9%、サービス関係で1.4%改善の46.4%と、やや厳しい状況が続く判断となっています。

また、雇用関連は、製造業の好調な機運から7.1%上げて71.4%と引続き回復を示す判断となっています。

表1 5月構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
合計	2.4	26.8	46.4	14.6	9.8	0.0	49.4
家計動向関連	0.0	20.6	50.0	17.6	11.8	0.0	44.9
小売関連	0.0	20.0	40.0	26.7	13.3	0.0	41.7
飲食観光関連	0.0	25.0	50.0	16.7	8.3	0.0	47.9
サービス関連	0.0	14.3	71.4	0.0	14.3	0.0	46.4
雇用関連	14.3	57.1	28.6	0.0	0.0	0.0	71.4

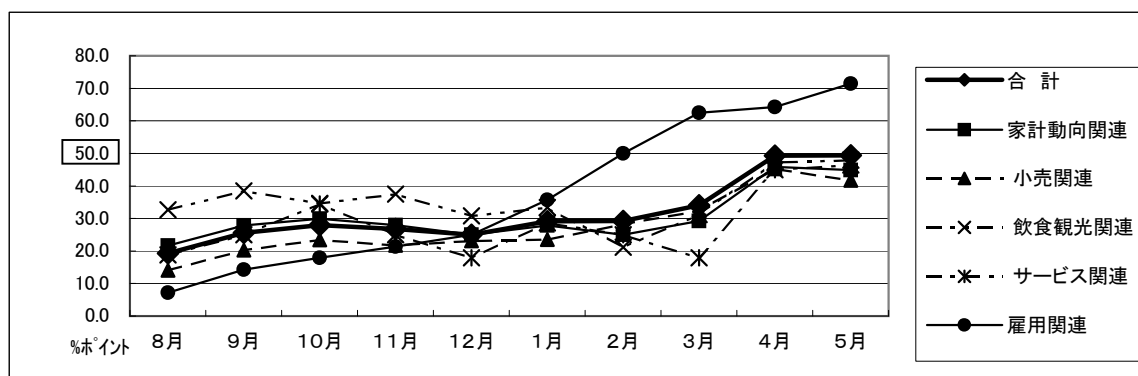
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
2009	1 2	0.0	2.5	25.0	42.5	30.0	0.0	25.0
2010	1	0.0	9.3	27.9	27.9	32.6	2.3	29.1
	2	0.0	21.4	19.1	14.3	45.2	0.0	29.2
	3	0.0	16.7	23.8	38.1	21.4	0.0	34.0
	4	5.4	27.0	37.9	18.9	10.8	0.0	49.3
	5	2.4	26.8	46.4	14.6	9.8	0.0	49.4
	(前月差)	(-3.0)	(-0.2)	(8.5)	(-4.3)	(-1.0)	(0.0)	(0.1)

表3 D I 値の推移

	2009年 1 2月	2010年 1月	2月	3月	4月	5月	(前月差)
合計	25.0	29.1	29.2	34.0	49.3	49.4	(0.1)
家計動向関連	25.0	27.8	25.0	29.2	45.9	44.9	(-1.0)
小売関連	23.1	23.5	28.2	32.4	45.3	41.7	(-3.6)
飲食観光関連	30.8	33.4	21.2	31.2	47.2	47.9	(0.7)
サービス関連	17.9	28.6	25.0	17.9	45.0	46.4	(1.4)
雇用関連	25.0	35.7	50.0	62.5	64.3	71.4	(7.1)



2-2-1 3ヶ月前と比べた場合の景気の現状判断

3ヶ月前と比べた場合は、先月に比べ5.8%悪化の47.6%と、回復傾向からやや厳しい状況に戻る判断となっています。

内訳は、小売関連で11.6%下げて40.0%とやや厳しい状況に戻り、飲食観光関連でも11.8%下げて52.1%と辛うじて回復傾向を示していますが、逆にサービス関連は4.3%改善し39.3%と厳しい状況から抜け出す兆しが見える判断となっています。

また、雇用関連は、先月と比べて7.1%改善し、64.3%と引続き回復を示す判断となっています。

表1 5月構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	未回答	D I 値
合計	0.0	24.4	48.8	14.6	9.8	2.4	47.6
家計動向関連	0.0	17.7	50.0	17.6	11.8	2.9	44.1
小売関連	0.0	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0	40.0
飲食観光関連	0.0	25.0	50.0	16.7	0.0	8.3	52.1
サービス関連	0.0	0.0	71.4	14.3	14.3	0.0	39.3
雇用関連	0.0	57.1	42.9	0.0	0.0	0.0	64.3

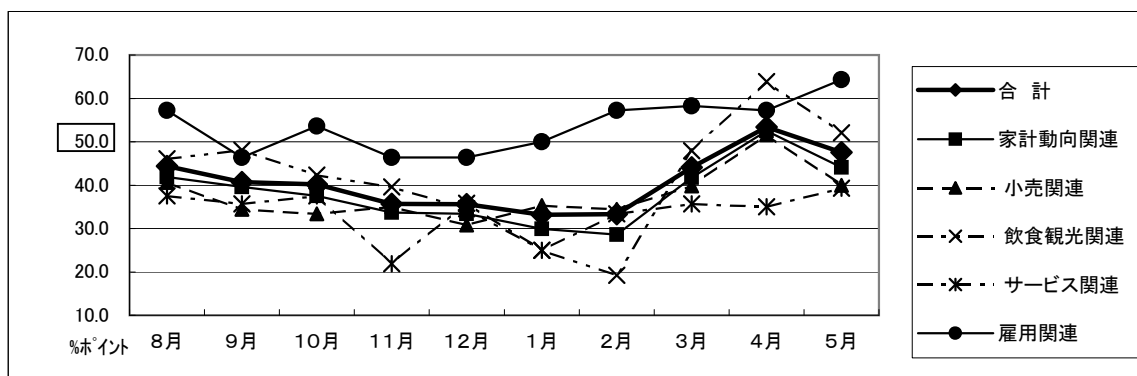
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	未回答	D I 値
2009	12	0.0	15.0	35.0	27.5	22.5	0.0	35.6
2010	1	0.0	4.7	46.5	20.9	25.6	2.3	33.2
	2	0.0	9.5	40.5	23.8	26.2	0.0	33.3
	3	2.4	21.4	40.5	21.4	14.3	0.0	44.1
	4	2.7	27.0	54.1	13.5	2.7	0.0	53.4
	5	0.0	24.4	48.8	14.6	9.8	2.4	47.6
	(前月差)	(-2.7)	(-2.6)	(-5.3)	(1.1)	(7.1)	(2.4)	(-5.8)

表3 D I 値の推移

	2009年		2010年					(前月差)
	12月	1月	2月	3月	4月	5月		
合計	35.6	33.2	33.3	44.1	53.4	47.6	(-5.8)	
家計動向関連	33.4	29.9	28.6	41.7	52.5	44.1	(-8.4)	
小売関連	30.8	35.3	34.4	39.8	51.6	40.0	(-11.6)	
飲食観光関連	34.6	25.0	19.2	47.9	63.9	52.1	(-11.8)	
サービス関連	35.8	25.0	33.4	35.7	35.0	39.3	(4.3)	
雇用関連	46.4	50.0	57.2	58.3	57.2	64.3	(7.1)	



2-2-2 3ヶ月前と比べた場合の景気の判断理由

判断の理由として家計動向関連の小売関連では、販売量の減少から「販売量の動き」が53.3%と高く、続いて、来客数の減少などから「来客数の動き」と「お客様の様子」が40.0%となっています。また、「売上げ単価が上昇した。」という好転を期待するものがある反面、「具体的な状況」欄の未記入が約半数に上り、状況にあまり変化がないものと思われれます。

飲食観光関連でも、観光客などの増加から「来客数の動き」が66.7%と、先月と同じく突出して大きくなっています。

サービス業関連でも、お客様の減少などから「お客様の様子」が71.4%と「来客数の動き」が42.9%と全ての理由がこの2つとなっています。

次に、雇用関連では、新規求人数の状況から「求人数の動き」が57.1%と高く、ついで、製造業の状況から「周辺企業の様子」が42.9%となっています。

	①来客数の動き	②販売量の動き	③単価の動き	④お客様の様子	⑤競争相手の様子	⑥それ以外
家計動向関連	50.0	29.4	26.5	38.2	2.9	2.9
小売関連	40.0	53.3	33.3	40.0	0.0	0.0
飲食観光関連	66.7	16.7	33.3	16.7	8.3	8.3
サービス関連	42.9	0.0	0.0	71.4	0.0	0.0

	①求人数の動き	②求職者数の動き	③採用者数の動き	④雇用形態の様子	⑤周辺企業の様子	⑥それ以外
雇用関連	57.1	14.3	0.0	0.0	42.9	0.0

※複数回答による割合

3 3～6ヶ月先の景気の先行き判断

景気の先行きについては、先月と比べ6.2%ポイント上げて、54.9%ポイントとさらに回復傾向を見込む予想となっています。

内訳は、小売関連で0.3%ポイント下げて43.4%ポイントと引続きやや厳しい状況を予想し、飲食観光関連が11.8%ポイント上げて64.6%ポイントと夏から秋への観光シーズンに大きく期待し、サービス関連も10.0%ポイント上げて50.0%ポイントと回復傾向を見込む結果となっています。

また、雇用関連では、先月と比べさらに7.2%ポイント改善し、67.9%ポイントと引続き雇用の回復を見込む予想となっています。

表1 5月構成比

	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	未回答	D I 値
合計	2.4	36.6	41.5	12.2	4.9	2.4	54.9
家計動向関連	3.0	29.4	44.1	14.7	5.9	2.9	52.2
小売関連	0.0	26.7	33.3	26.7	13.3	0.0	43.4
飲食観光関連	8.3	41.7	41.7	0.0	0.0	8.3	64.6
サービス関連	0.0	14.3	71.4	14.3	0.0	0.0	50.0
雇用関連	0.0	71.4	28.6	0.0	0.0	0.0	67.9

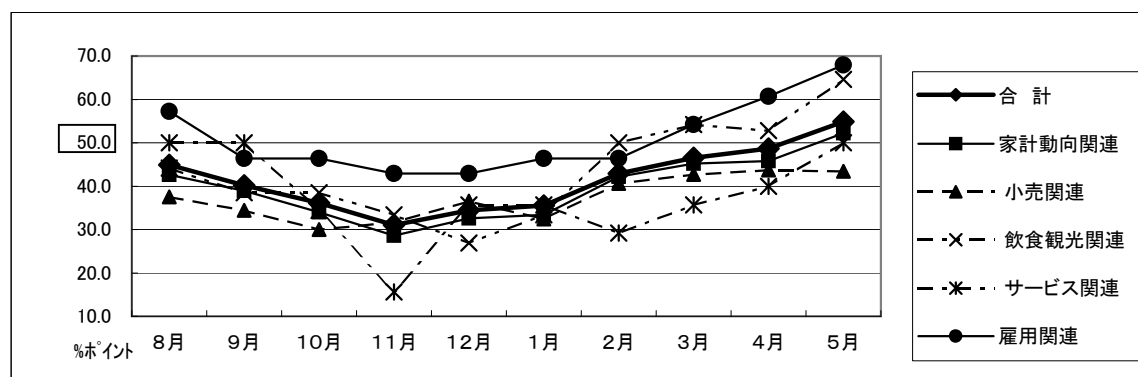
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	未回答	D I 値
2009	1 2	0.0	7.5	37.5	35.0	17.5	2.5	34.4
2010	1	2.3	4.7	44.2	25.6	20.9	2.3	35.5
	2	2.4	7.1	52.4	26.2	7.1	4.8	42.9
	3	2.4	19.1	50.0	19.0	9.5	0.0	46.5
	4	0.0	27.0	48.7	16.2	8.1	0.0	48.7
	5	2.4	36.6	41.5	12.2	4.9	2.4	54.9
	(前月差)	(2.4)	(9.6)	(-7.2)	(-4.0)	(-3.2)	(2.4)	(6.2)

表3 D I 値の推移

	2009年		2010年					(前月差)
	1 2月	1月	2月	3月	4月	5月		
合計	34.4	35.5	42.9	46.5	48.7	54.9	(6.2)	
家計動向関連	32.6	33.4	42.2	45.2	45.8	52.2	(6.4)	
小売関連	36.6	32.4	40.6	42.7	43.7	43.4	(-0.3)	
飲食観光関連	26.9	33.4	50.0	54.2	52.8	64.6	(11.8)	
サービス関連	35.7	35.7	29.2	35.7	40.0	50.0	(10.0)	
雇用関連	42.9	46.4	46.4	54.2	60.7	67.9	(7.2)	



景気の現状判断の理由

分野	景気の判断		調査対象	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	3ヶ月前	1年前			
家 計 動 向 関 連	やや良くなっている	やや良くなっている	小売店	販売量、単価の動きとお客様の様子	—
			小売店	単価の動き	・売上げ単価が少し上昇した。
			スーパー	販売量、単価の動きとお客様の様子	—
			道の駅	来客数の動きとお客様の様子	・店内改装も行き、地域性ある店づくりを始めた。
			観光案内所	来客数と販売量の動き	・新緑の季節に入り、観光客、多くなった。
	変わらない	やや悪くなっている	飲食店	来客数と販売量の動き	・連休中はそこそこであったが、中旬以後は少し落ち着いた。
		やや良くなっている	金融機関	お客様の様子	・昨年同時期よりは、受注は回復傾向を示しているが、本格的な回復とまでは至っていない。
		変わらない	小売店	来客数の動きとお客様の様子	・昨年から、さほど変わりがなく、買い物の量が小さくなっている。
			小売店	お客様の様子	—
			小売店	来客数の動き	—
			スーパー	販売量の動き	—
			スーパー	販売量の動きとお客様の様子	—
			自動車販売	来客数と販売量の動き	・前年対比マイナス。
			レストラン	来客数の動き	・天候にも恵まれ、大型連休中は昨年並みに推移しましたが、中旬から下旬にかけては客足が鈍りました。
			レストラン	単価の動き	—
			旅館	来客数の動きとお客様の様子	・業況は低景ではある、上向かない。
			旅館	単価の動きと競争相手の様子	・同業他社（大手チェーン）の値引きが目立つ。（低価格でないと集客できない。）
			旅行代理店	来客数の動き	・日帰りツアー（安い）の申込みは多い。高いツアー（海外・飛行機を利用する国内など）の申込みは少ない。
			金融機関	お客様の様子	・夏期のボーナスも思わしくない様子。
			美容室	—	・相変わらず来客数が少ない。
福祉施設	来客数の動きとお客様の様子		・3月31日付で解雇となり、生活福祉資金の借入の相談が増えた。（4月の相談件数11件） ・3月以前の生活福祉資金貸付者のほとんどが現在も就職できていない。		
タクシー運転手	来客数の動きとお客様の様子	・世間が景気が悪いと言っているのので、そのような生活になって来ている。			
やや悪くなっている	道の駅	単価の動き	・少しですがお客さんが増えているような気がいたします。		

	やや悪くなっている	変わらない	居酒屋	—	・今年の2月は、毎日生ビール300円にしたので、それと比べて5月は、ひまだったような気がしました。
			タクシー運転手	お客様の様子	・相変わらず、毎月毎月同じ。町を歩く人も、変わらない。
		やや悪くなっている	商店街関係者	お客様の様子	・減少傾向にある。
			小売店	単価の動き	・お客様1人あたりの売上げ単価の推移に注目。
			小売店	来客数、販売量、単価の動き	—
	悪くなっている	レストラン	来客数と単価の動き	—	
	悪くなっている	やや悪くなっている	商店街関係者	来客数の動き	・商店街の人通りが悪くなって（車社会）とても静かです。
		悪くなっている	商店街関係者	販売量の動き	・連休でレジヤーにお金を使ってしまったのか？
			小売店	来客数と販売量の動き	・来客数、販売量ともに極端に減少、悪化。
			理容室	来客数の動き	—
—	やや良くなっている	スナック	来客数の動き	・40才前後の人達がスナックまで来客しなかったのが以前の様に少しづつ、来客してくれるようになった。	
雇用関連	やや良くなっている	良く	自治体労働政策担当	周辺企業の様子	・製造業の受注は戻ってきている。
		やや良くなっている	職業安定所	求人数の動き	・前年と比べて、製造業（特に電気機械器具製造業）とサービス業（特に飲食店）において求人が増加している。
			労働金庫	周辺企業の様子	・製造業における残業が増えている。
			学校就職担当	周辺企業の様子	・自動車の輸出がよくなって来ているので、関連企業の仕事量が増えてきつつあると聞いている。
	変わらない	やや良くなっている	労働相談所	求人数と求職者数の動き	・4月分の有効求人倍率0.52と前月の0.68を大きく下まわる状況となり、求人件数が低下している。
		変わらない	学校就職担当	求人数の動き	・企業の来客件数は昨年よりやや少ないが、新規の企業からの訪問も何件かあり全体としては昨年と同様ではないか。
			人材派遣会社	求人数の動き	・正規・非正規の求人は悪化の一途で改善の兆しがみえない。反面、パート・アルバイト（短期）の求人が増大傾向。

景気の先行き判断の理由

分野	景気の判断	調査対象	追加説明及び具体的状況の説明
	良くなる	観光案内所	・ 去年のデーターから判断した。絶対に良くなって欲しいとの思いもあって。
	やや良くなる	小売店	・ 不況なれ、我慢の限界、車販売の落ち止まり。
		小売店	—
		小売店	—
		スーパー	—
		道の駅	・ スタッフを増強し、リピーターづくりを仕掛けていくので、全体的に良くなると思います。
		飲食店	・ 製造業の回復が続けば全体が上向くのでは。
		スナック	・ お客様の会話が、はずんでいる様に感じます。仕事がないと言っていた方達が、あまり口にしなくなった。
		居酒屋	・ 首相が変わったから。
		旅館	期待から。
	福祉施設	・ 工業団地で働く人の勤務制限をする会社が減ってきた。	
	変わらない	小売店	・ 経済が不安定で、期待できない様な気がします。。
		小売店	—
		スーパー	—
		スーパー	—
		自動車販売	・ 来客数でいえば増加傾向とはいえない。
		道の駅	—
		レストラン	・ 国等が対策と対応が出来ていない。
		レストラン	・ 良くなる要因がない。
旅館		・ 近年の宿泊者数の減少。	
旅行代理店		・ 見通しは決して明るくない。	
金融機関		・ 良くなる要因がない。	
美容室		・ 当分この状況が続きそうだと思う。	
理容室		—	
タクシー運転手	・ 良くなっていないが、悪いままが続いている。		

	タクシー運転手	・このままでは変わらない。動く日もあれば動かない日もある。町へ出歩く人の多い日と少ない日がある。駅を見ると駅に入ってくる電車はガラガラ。	
やや悪くなる	商店街関係者	・明るいニュースが全くない。(ギリシャの問題は、日本も他人事ではないのでは)	
	小売店	・ギリシャに端を発した、世界的な信用不安、日本の政治及び経済の先ゆき不透明感等々、良くなる要素が皆無。	
	小売店	—	
	小売店	—	
	金融機関	・参議院選挙があり、今後の政局が不安定となる可能性が高く、景気回復策の実施が遅れる懸念が大きいため。	
悪くなる	商店街関係者	・商店街の店も減少し、お客様の高齢化も進み段々と景気が悪くなると思います。	
	商店街関係者	—	
雇用関連	やや良くなる	職業安定所	—
		学校就職担当	—
		学校就職担当	・名古屋港からの輸出が、自動車を中心にかなりもちなおしてきているという報道を聞くと、景気も序々にではあるが回復しつつあるのかなという実感がわいてくる。
		人材派遣会社	・国内景気の上昇とともに、秋口あたりから中小にも連動してくると期待できるが、雇用の面については相変わらず不透明。
		自治体労働政策担当	・エコポイント終了に向けて、かけ込みが予想されるが、その後は心配。
	変わらない	労働金庫	・好転する材料がない。
		労働相談所	・景気が上向く要因が見当たらない。